

青森県生活協同組合連合会 会 長 井筒 智義
岩手県生活協同組合連合会 会長理事 加藤 善正
秋田県生活協同組合連合会 会長理事 大川 功
宮城県生活協同組合連合会 会長理事 齋藤 昭子
山形県生活協同組合連合会 会長理事 岩本 鉄矢
福島県生活協同組合連合会 会 長 熊谷 純一
(公印省略)

家庭用灯油に関する要請書

御社におかれましては益々ご隆昌のこととお慶びを申し上げます。

また平素はご厚誼を賜り、心より御礼を申し上げます。

さて、3月11日の東日本大震災後の極端な灯油・ガソリン・軽油不足による寒さを未だに忘れることはできません。東北に住む私たちにとって「灯油」は欠くことができない命や暮らしを守る生活必需品であること、またガソリンや軽油などの石油製品はくらしや経営、経済そのものにとって不可欠の物資であることを、改めて思い知らされました。あの1ヶ月にもわたる深刻な石油製品不足は、なぜ起こったのでしょうか。背景には、行過ぎた規制緩和や市場競争任せの弊害があると考えます。石油元売会社は、製油所や油槽所、タンクローリー車を合理化の名の下に削減し続けてきたことも要因にあるのではないのでしょうか。

灯油在庫についても、不足を心配する消費者の声があるにも関わらず、過去最低の在庫量で2010年度の需要期に入り、そのまま低在庫を理由にして高価格を維持してきました。その結果、石油大手3社は2010年度も、また今年の第一四半期でも巨大な利益をあげており、消費者として納得できない思いを持っています。

こうした背景の中、今冬の灯油最需要期を迎えるにあたり、安定供給について大変心配です。東北唯一の仙台製油所が来年3月まで稼動しないこと、気仙沼・塩釜など沿岸の油槽所の供給機能の低下、タンクローリーや販売店・販売員の不足などなど不安要素が多いからです。特に被災地はガソリンスタンドの絶対数の不足も心配しています。9月末時点の灯油在庫は09年並に戻ただけであり、これでは急な寒波などが来た場合など対応しきれません。天候や再び地震が起きた場合など十分に想定した上で、再び量不足や流通の滞りがおきないように、今冬の灯油供給について、貴社が石油元売会社としての社会的責任を果たされることを望みます。

価格についても心配です。

昨年秋に「75ドル/バレル」だった中東原油はその後上昇し続け、現在は110ドル前後という高騰が続く様相です。今年の灯油は昨年より18%1缶で200円以上も高い、1,600円～1,700円という異常値で需要期を迎えました。東日本大震災でのダメージから東北のくらしや地域経済は一層の厳しさを増す中、このような異常な価格ではこの冬を乗り越えられません。

原油高騰は、「投機マネー」が主な原因だといわれておりますが、石油元売会社による一方的な価格決めも問題です。最需要期になると灯油だけが他の石油製品より高くなったり、原油価格相場以上に仕切り価格を上げられることは納得しかねます。

生活必需品であるにも関わらず、私たち東北の住民が毎年のように量と価格に悩まされるのは、現在の石油精製・流通に問題があると考えます。灯油の値上げや量不足は、低所得者や零細中小企業、第一次産業などあらゆるところに影響します。特に、震災により多くの県民が苦しんでおり、例年とは違う対応が必要です。

消費者の立場から、適正価格と安定供給に貴社が社会的責任を果たされるよう、以下のことを要望いたします。

[要請項目]

- 1、円高差益が速やかに仕切り価格に反映されるようお願いします。特に北国の『必需品』である灯油が、他油種より高い状況や原油相場以上に価格が上がる状況は是正されるべきです。
- 2、私たちが安心して生活するために、冬季間の灯油は適正な価格と安心できる在庫水準が必要です。灯油が生活者の必需品であることを踏まえ、需給をタイトに維持する計画を絶対にとらず、安定した供給となるよう強く要望します。
- 3、今冬の石油製品について量不足が再び起きないように、万全の体制で臨んでください。特に、寒波や不測の事態が起きても生協に必要量が速やかに入るようお願いします。

以上